

「湊町・カーボン  
ニュートラル」  
宣言へ！

田代地区で、昨年から炭焼き小屋を復活させ、炭焼きをしています。

木を捨てておくと朽ちていき、二酸化炭素を放出していきますが、炭にすると放出せずに、水の浄化・土壌改良剤空気の清浄剤などにも活用できます。今後の活用法として背炙り山の森林環境を整備し鳥獣からの被害を少なくし、猪苗代湖の水をきれいにし、畑の土壌を改良することで野菜のブランド化を図り、継続して湊町のカーボンニュートラルの取り組みを進められる環境にしていきたいと思えます。



事務局

山城ツアー開催予定！

今年も、湊町の歴史や文化について、調査していきます。昨年まで、湊町の山城の構造や役割について調べてきましたが、数多くの方にも伝えていきたい、興味のある方に、湊山城ツアーを秋頃行う予定をしています。

決まりましたら後日ご案内申し上げます。教育環境部

炭作り  
たけのこ山

昨年、田代の方々のご協力により作り上げた、炭窯で炭焼きを続けています。今年は、作り上げた松炭と砂鉄を利用したの、たたら実証実験を行う予定です。

6月4日に、昨年作った炭で、たけのこ汁バーベキュー等しながら、今後の活動について話し合いました。今年は、これから3回の炭焼きを予定しています。

子供たちの見学学習の場所にもできたらばと考えています。



教育環境部

耕作放棄地が  
ひまわり畑に

☆地域課題解決

放棄地の有効活用  
放棄されていた畑にひまわりを植える活動を行いました。

県内初のイベント「湊グ  
ラベルライド」が6月4・  
5日に湊地区内で開催され  
ました。

参加されたご家族や東海  
理化のスタッフで畑を耕し  
ひまわりの種を蒔きました。  
夏には、素敵な花畑になる  
と良いですね。

※放棄された畑を耕すこ  
と（草刈りや、ツルきりな  
ど）とても大変でした。



（株）東海理化

視察や見学が来ています

NPOみんなと湊まちづ  
くりネットワークには、毎  
月多くの企業や自治体大学  
などから視察や意見交換に  
訪れています。

その中で、継続的に湊地  
区に貢献していただいてい  
る企業様もあります。

事務局

こども食堂への支援など  
（株）東海理化



西田面に事務所（HANG  
OUT）を開設し、地域と  
一体となって活動している  
（株）東海理化様です。

昨年度は、会津若松市の  
「こども食堂」の支援をす  
るための湊産野菜の収集・  
運搬・地域の草刈り人足へ  
の参加・縁結び事業への協  
力・田代での炭焼など顔が  
見える実際の活動を行って  
いただきました。

さらに、地域にとって役立  
つ事業に、一緒に取り組む  
予定です。本年も湊の地域  
起こしにさらに大きな期待  
が寄せられています。

（株）東海理化

ホスピタルアート展

特別養護老人ホーム絆に  
は、「東北芸術工科大学」  
の学生たちの作品が、「ホ  
スピタルアート」としての  
絵画が展示されています。

これは、絆の利用者もも  
とより、働くスタッフも心  
ゆたかに働ける空間を作る  
為の取り組みとしてスタ  
ートさせました。

当初の予定では1年に1  
度新しい絵画に入れ替えし  
常に新鮮な空間を作り続け  
る予定でしたが、新型コロナ  
ナ感染症の影響で学生たち  
の施設内に入ることが制限  
されて、入れ替えができ  
ませんでした。

ようやく今年3年ぶり  
に絆の職員の手で入れ替  
えできる見通しとなりま  
した。

湊ムービーで様子を見  
られるようにしたいと思  
いますので、自宅のみな  
とチャンネルやスマホ版  
で見ていただき、ここで  
ゆたかに癒されるひとと  
きを作っていただければ  
と望んでいます。



「事務局」

「みなとふれあい号」  
利用しませんか

みなさん！

ご存じでしょうか？  
絆から、提供いただいた  
マイクロバス。みなとふ  
れあい号として活用させ  
ていただいています。

地区や団体、個人などで  
利用もできますので、お  
気軽に事務局までお声か  
してみてください。



生活福祉部会

編集後記

「笑顔通信」発行20号達成

このNPOみんなと湊ま  
ちづくりネットワークが法  
人として令和元年に設立し  
ました。それ以前は平成2  
7年3月に湊地区地域活性  
化協議会として湊地区内の  
各種団体・機関等の代表に  
よって湊地区の地域おこし  
をみんなで活動としてとり  
組んでいこうといろんな事  
業を展開してきましたが、  
なかなか皆さんに活動の内  
容や、そもそもの動きが  
見えないという声も多々ご  
ざいました。  
そのような背景を踏まえて  
情報発信の必要性が喫緊の  
課題ととらえて「笑顔通信」  
を発行して、今回第20号  
を迎えました。感謝